

第1学年〇組 道徳科学習指導案

平成〇〇年〇月〇日（〇） 第〇校時

1 主題名 勇気を出して

2 ねらい 正しいと思ったことは、恐れなくて、勇気をもって行おうとする態度を養う。

教材名 「ダメ」（出典：「あたらしいどうとく 1」東京書籍）

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする指導内容について

本主題は内容項目 A「よいことと悪いこととの区別をし、よいと思うことを進んで行うこと」をねらいとしている。価値観の多様な社会を主体的に生きる上での基礎を養うために、人としてやってよいこと、社会通念として、してはならないことをしっかりと区別したり、判断したりする力は、児童が幼い時期から身に付けさせることが大切である。そのためには、何事にも積極的に取り組む姿勢が必要となるが、その原動力が勇気であると考えられる。その勇気とは、過信や自分勝手ではなく、よいと思ったこと、正しいと判断したりすることができる力を伴った自信や自律的な態度でなくてはならない。よいこと、正しいことを、人に左右されることなく、自ら正しいと信じてるところに従い行動することは、人として重要なことである。運動会を通して集団生活に対する自覚が芽生えてきたこの時期に、正しいと思ったことは、恐れずに、勇気をもって行おうとする態度を育てたいと考え、本主題を設定した。

(2) 児童の実態について

本学級の児童は、学校生活にも慣れ、集団の中での生活を意識しようとする児童が多い。「静かにしよう。」「もうすぐ時間になるよ。」など、きまりや時間を守って行動しようとクラスに呼び掛ける児童も増えてきた。日常の生活の中で道徳的な実践ができてきている場面があるが、自分の中で、その行動がどういう意味があるのか意識することはあまりない。そこで、帰りの会で「今日の一步」の発表の時間を設け、クラスや友達のために行動をした児童を賞賛したり、感謝の気持ちを表したりと、日常的に行動をとりあげる学級風土をつくり、よいと思ったことができたときのすがすがしい気持ちが感じられるよう、取り組んできた。しかし、よくないことだと分かっているにもかかわらず、教室や廊下を走ってしまったり、時間を守らず遅れてきたりする児童もいる。「少しくらいなら大丈夫。」「みんなもやっているから大丈夫。」というように、自分勝手な判断で行動することがよくある。また、よくない行動を見かけても、直接自分では注意せず、教師に頼る児童も多い。「善悪の判断」の知識や理解力はあるが、「正しいことを進んでする。」「よくないことはよくないと注意する。」といった、行動が伴っていないのが実態である。

(3) 教材の特質や活用方法について

大好きなプリンを食べられてしまった「りすくん」が、体も声も大きい「くまくん」に勇気を出して「あやまって。」と迫っていくという資料である。

いつも何でも譲ってきた「りすくん」の「ダメ。」と言えなかった心情に共感するようにしながらも、葛藤した後に正しいと思うことをしっかりと主張する姿を通して、勇気をもって行う態度を養いたい。

教材の活用にあたっては、道徳的価値に迫らせ、多様な意見を出させるために、話を3つの場面に分けて展開していく。

4 道徳科における本年度の重点項目の指導計画

内容項目	【事前指導】	【道徳科】	【事後指導】
A 善悪の判断、 自律、自由と 責任	9月 下校指導 みんなが安全に下校することができるよう学年や学級で指導した。	9月「それって、おかしいよ」 よいことと悪いこととの区別をし、よいと思うことを進んで、行おうとする態度を育てる。 10月「ダメ」 正しいと思ったことは、恐れな いで、勇気をもって行おうとする態度を養う。	日常生活の中で 休み時間や給食、掃除の時間 など、様々な場面において、 自分で考え、正しいと思うこ とを進んで行う児童を称賛 し、広めていく。
A 希望と勇気、 努力と強い意 志	毎月 月ごとの生活目標に対して、 1週間ごとに具体的なめあて を学年で設定する。 毎日、めあてが達成できたか 振り返る。	6月「うかんだ うかんだ」 自分の目標に向かって、一生懸命努力しようとする意欲を育てる。 11月「こぐまのらっぱ」 自分で行わなければならないこ とは、最後まで粘り強く行おう とする心情を育てる。	1月 大縄大会 大縄大会に向けて、クラスご とに目標を立て、達成を目指 して練習に取り組ませる。

5 研究テーマ「よりよく伸びようとする児童の育成～自己の生き方についての考えを深める授業展開を通して～」に迫る手立て

- 自分自身のこととして捉えられるような発問を工夫すれば、自己の生き方についての考えを深めることができるだろう。
 - ・中心発問につながる場面で話を切り、自分だったらどうするか考えをもたせる。
 - ・考えをもったうえで役割演技をし、登場人物の気持ちを体験させ、自分自身のこととして捉えさせる。
- 「ともに考え、話し合う」活動を設定すれば、自己の生き方についての考えを深めることができるだろう。
 - ・ペアで意見を交流する活動を設定し、一人ひとりが自分の考えをしっかりとつことができ、友達と意見を伝え合う中で、考えを深めることができる。
 - ・役割演技では、教師が橋渡しをし、発表した児童から挙がった登場人物の気持ちを、クラス全体、または別の児童に返して考えさせたり、揺さぶる発問をしたりする。
- 「自分や友達の良さに気付くことができる環境」を整えることで、自己の生き方についての考えを深めることができるだろう。
 - ・月目標の達成者の発表、掲示。
 - ・毎日帰りの会において、頑張っていた友達（今日の一步）の紹介と、きらり星の掲示。

6 学習指導過程

	★学習活動 ○主な発問(◎中心発問)・予想される児童の反応	●指導上の留意点 ◆評価の視点
導入	①自分自身の生活について振り返り、本時の価値について意識づけをする。	
展開	<p>②登場人物や場面の状況を知る。</p> <p>③教材「ダメ」の前半部分 (p. 44 L2 まで) の範読を聞き、「りすくん」の心情や行動を自分と重ねて、「りすくん」の心情や行動の変容について話し合う。</p> <p>○夜、布団の中で、「りすくん」はどんなことを考えていたのでしょうか。</p> <p>嫌だった気持ちを伝えたい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・怖いけど言った方が良い。 ・嫌なことは、嫌だと伝えた方がいい。 ・嫌な気持ちが続くのは、嫌だ。 <p>困ってしまう、迷ってしまう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言いたいけど、くまくんが怖くて言えない。 ・どうしたらいいのか、わからない。 <p>言えない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・また何か嫌なことされるかもしれない。 ・くまくんが怖い。 ・くまくんと仲が悪くなってしまうかもしれない。 <p>④教材「ダメ」の後半部分 (p. 44 L3～L12) の範読を聞き、「りすくん」の心情について考える。</p> <p>◎「りすくん」は、どんな気持ちで「ぼくはいやだったんだ。くまくん、あやまって。」と、とびきり大きな声で言えたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・くまくんに、ぼくの気持ちを分かってもらいたい。 ・くまくんに、勇気を出して言おう。 ・いやなことが続くのは、もういやだ。 ・真剣な顔で、くまくんに伝えたい。 ・いけないことはいけないと言った方が良い。 	<p>●「りすくん」と「くまくん」の関係が友達であることを確認しておく。</p> <p>●からだも声も大きい「くまくん」に対して、はっきり断れない「りすくん」に共感できるようにする。</p> <p>●プリンを食べられて嫌だったことを言おうか、言わないか葛藤していることを確認しておく。</p> <p>●自分が「りすくん」だったらどうするか考え、意思表示させる。</p> <p>「りすくん」の心情や行動を自分と重ねて、「りすくん」の心情や葛藤について考え、正しいと思ったことを恐れずに、進んで行おうとする態度を育む。</p> <p>●葛藤した結果、言おうと決心した「りすくん」の様子について捉えさせる。</p> <p>●自分の気持ちをはっきり伝えられた「りすくん」の気持ちについて、役割演技を通して考えさせる。</p> <p>●役割演技では、教師が橋渡しをし、発表した児童から挙がった登場人物の気持ちを、クラス全体に返して考えさせたり、揺さぶる発問をしたりする。</p> <p>◆「りすくん」の心情や行動を自分と重ねて、「りすくん」の心情や葛藤について自分の考えを表出している。</p> <p>(役割演技・発言)</p>

展 開	⑤教材「ダメ」の結末部分 (p. 45) の範読を聞き、「りすくん」も「くまくん」も笑顔になっていることを捉える。 ○「くまくん」と一緒に笑顔でいちごを食べている「りすくん」は、どんな気持ちでしょうか。 ・自分の気持ちを伝えられてよかった。 ・くまくんに、自分の気持ちが伝わってよかった。 ・モヤモヤする気持ちがなくなった。 ・くまくんと、もっと仲良しになれた。	●ペアで意見を交流する活動を設定し、一人ひとりが自分の考えをしっかりと持ち、考えを深められるようにする。 ●正しいと思ったことを進んですることで、自分も相手も気持ちがいいということに気づかせる。
	⑥自分の気持ちをはっきり伝えることができた「りすくん」に手紙を書く。	◆これまでの自分を振り返りながら、正しいと思ったことは、恐れずに進んで行っていこうと考えている。 (ワークシート)
終 末	⑦今後の自分の生活について考える。	●本時で大事だと思ったことを実践していこうとする意欲をもたせる。

7 評価の視点

【物事を多面的・多角的に考えている様子】

- ・主人公に自分を投影しながら考え、話し合っている。

【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

- ・正しいと思ったことは、恐れずに進んで行うことの意義について、自分との関わりで考えている。

8 板書計画

ここにこの
くま りす

- ・きもちを、つたえられてよかった。
- ・じぶんのきもちが、つたわってよかった。
- ・モヤモヤするきもちがなくなった。
- ・くまくんと、もっとなかよしになれた。

えがおのりすくん

大声の
りすくん

- ・いやなおもいがつづくのは、いや。
- ・ダメなことは、ダメってつたえる。
- ・くまくんのためにも、つたえたい。
- ・くまくんなら、わかってくれる。

とびきり大きなこえでつたえたりすくん

布団の中の
りすくん

いえない

- ・こぼり、りすくんがこわい。
- ・くまくんが、きこわれたくない。

いもう

- ・きもちが、はっきりつたえたいほうがい。
- ・まのついでなつて、こわかった。

まよう

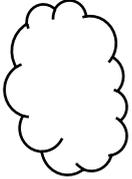
プリンを食べる
くまくん

でも

- ・こわい
- ・つきとばされたらいや

プリンをたべられていや!

りすの顔
からだ
こえ
小さい



くまの顔
からだ
こえ
大きい